

B—72 皮脂の肌着への収着およびその除去に関する研究（第11報）
皮脂汚れの洗浄

愛知学芸大 平尾 あや

1. 健康な成人女子学生を対象として肌着の皮脂汚れについて、単分子膜レンズ法で測定する方法を用いて今までに汚れ方の種々の場合について調査し、ほぼそれらの調査を終えたので今回は、肌着の皮脂汚れの除去（洗浄）について調査することとした。

2. 本学4年の女子学生6名が、一定の木綿メリヤスの肌着の背に試布（木綿メリヤス・ $7 \times 14\text{cm}^2$ ）2枚を左右にとじつけて3時間着用の汚れ布を作った。この汚布の一方を抽出して汚れ量を測定し、他方を洗浄乾燥後残量を測定して洗浄効率を計算した。洗剤はABS（アルキルベンゼンスルホン酸ソーダ）とSDS（ドデシルアルコール硫酸エステルソーダ）の2種を用いて、0.1%、 40°C 、30分、ATLASのLaunder-0-Meterによる常法洗浄とした。汚布中の汚れ量並びに洗浄布中の残留量の測定は単分子膜レンズ法である。実験は、4～6月に12回（ABSとSDS交互）行なった。

3. 6名の皮脂汚れをABS・SDSで洗浄した結果には、被験者間にも洗剤間にも有意差は認められなかった。洗浄効率値は、被験者間にまた、実験回数毎に大きくひらき、6月は4・5月よりそのひらきが大きく、D・E・F3名のひらきが他の3名に比べて大きかった。